

【週刊タバコの正体】

Vol.49 第12話～第13話

2021年07月

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 49

(No. 673) 第12話 タバコ病

一肺がん、COPD、心筋梗塞、脳卒中など、いわゆる「タバコ病」...

タバコの煙には5000種類以上の化学物質があり、その中には70種類の発がん性物質も含まれています。喫煙するとそんな物質が体内に入るのですから病気になる確率は高くなります。

下図にあるように、厚生労働省が喫煙との因果関係が確実と判定した病気は身体の様々なところで発症し、多くの臓器でがんになる確率が高くなっています。そしてがんで死亡する確率も高く、特に肺がんはタバコを吸わない人に比べ4倍も高くなっています。

また、喫煙者本人だけではなく、喫煙者の煙を吸わされた受動喫煙においても同様に発病する危険性が高くなっています。とりわけ幼少期に受動喫煙にあつと小児ぜんそくになったり、乳幼児突然死症候群の原因になることも知られています。このように、タバコが原因の病気は、まとめてタバコ病と言われほたくさんあります。

喫煙との因果関係が確実ということは「タバコを吸っていなければ、もしくは誰かのタバコの煙を吸わされていなければ、病気にならなくて済んだはずなのに…」と言えます。

それなら最初からタバコを吸い始めないようにしなくては、と思いますよね。

(No. 674) 第13話 寿命が短い

一喫煙者は寿命が短くなる...

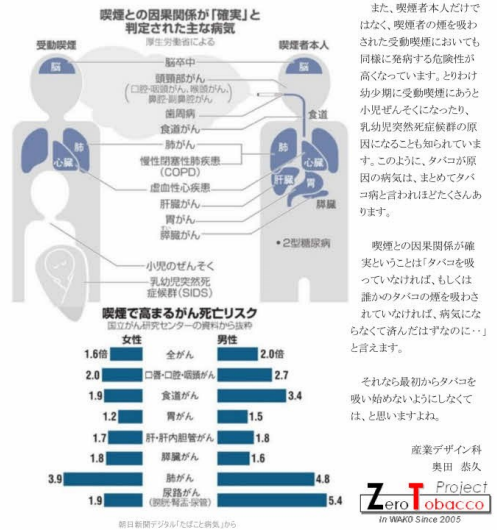
タバコを吸い続けると、いろいろな病気になる確率が高くなり、そのせいで命を落とす可能性も高くなります。タバコさえ吸い始めていなければ、もっと長く健康で生活できたはずなのに、吸い始めてしまったばかりに寿命を縮めてしまった人が大勢いるのです。そこで、下のグラフを見てくださいます。

英国で3万人以上の人を50年間追跡調査した結果を示したグラフです。たとえば横軸が70歳のところの点線を見てくださいます。非喫煙者を示す上のグラフの交点は「81」となっていますが、喫煙者の下のグラフは「58」となっていますよね。つまり、タバコを吸わない人の70歳の生存率は81%なのに、喫煙者は58%しかないのです。つぎに非喫煙者の「59」のところを見てくださいます、タバコを吸わない人の生存率が59%となるのは80歳であることがわかります。この結果から「喫煙者は、寿命が10年も短い！」と言えるわけです。

一度しかない人生で寿命が10年も短いなんて、どう思いますか。それに、そんな原因となるタバコにいったいいくら使ったことでしょうか。毎日10本を30年吸い続けたとするとざっと300万円になるでしょう。そんな費用をかけて寿命を縮めるために、毎日人目を避けてタバコを吸い続けるなんて、とてもむなしい限りです。どうか皆さん、タバコを吸い始めないでください。

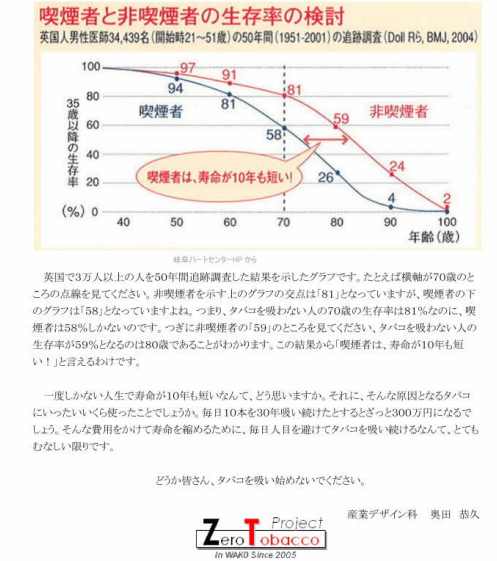
Volume 49 Serial number 673 第12話 週刊 タバコの正体

タバコの煙には5000種類以上の化学物質があり、その中には70種類の発がん性物質も含まれています。喫煙するとそんな物質が体内に入るのですから病気になる確率は高くなります。下図にあるように、厚生労働省が喫煙との因果関係が確実と判定した病気は身体の様々なところで発症し、多くの臓器でがんになる確率が高くなっています。そしてがんで死亡する確率も高く、特に肺がんはタバコを吸わない人に比べ4倍も高くなっています。



Volume 49 Serial number 674 第13話 週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると、いろいろな病気になる確率が高くなり、そのせいで命を落とす可能性も高くなります。タバコさえ吸い始めていなければ、もっと長く健康で生活できたはずなのに、吸い始めてしまったばかりに寿命を縮めてしまった人が大勢いるのです。そこで、下のグラフを見てくださいます。



毎週火曜日発行



URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

